

下野市子ども・子育て会議 議事録

審議会等名 令和4年度第4回下野市子ども・子育て会議
日 時 令和4年10月18日（火） 午前10時00分から12時00分まで
会 場 下野市役所 3階 304会議室
出席者 菅聖子委員、原田いづみ委員、竹内康博委員、猪瀬七重委員、
大塚洋子委員、小谷光子委員、佐間田香委員、大垣玉枝委員、
藤川智子委員、小林勲委員、稲山貴之委員
【欠席委員】早川陽子委員、高山由紀子委員、峯雅士委員
市側出席者 （事務局）福田健康福祉部長、金田こども福祉課長、
伊澤（雅）こども福祉課課長補佐、伊澤こども福祉課課長補佐、
植野こども福祉課主幹
朝川健康増進課長、土田学校教育課主幹
公開・非公開の別（ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 ）
傍聴者 2名
報道機関 なし
議事録（概要）作成年月日 令和4年10月18日

1. 開 会

（事務局、金田課長）

ただいまより、令和4年度第4回下野市子ども・子育て会議を開会します。
委員の出席状況ですが、早川委員、高山委員、峯委員から欠席との連絡を受けています。過半数の委員の出席がありますので、下野市子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定を満たしており、会議が成立することをご報告いたします。

続いて、資料の確認をさせていただきます。今回は報告に関する資料の調整に時間を要したため、委員の皆様事前に配布することができず、当日のお示しになりましたことお詫び申し上げます。なお、資料3については、お手元の正誤表のとおり修正したものを机の上に配布いたしましたのでご確認ください。

それでは、次第に基づき、2.会長あいさつを頂きます。

2. 会長あいさつ

（佐間田会長）おはようございます。本日はお足元の悪い中、お集まり頂いてありがとうございます。挨拶ということで。毎日お子さん達と会う中、感染状況が落ち着いてきて、運動会のお話とか遠足のお話とかを聞けて大変良かったなと思います。最近思っているのは、保育園入園前など1歳前の健診にいらっしゃる方もいます。お母さん方のお話を聞いていると、不安が高まって泣いてしま

うお母さんもいて、育児支援ということで、夕方までお子さんを預かって育児の負担を軽くしていくことはとてもいいことだと思うのですが、今までだと、放課後公園でちょっと遊んだりして、お母さん同士のコミュニケーションがあったりしていたのが、これからはまったく無くなっていく。また、コロナで、保護者同士が係わる運動会や、遠足がなくなり、お母さん同士が連絡を取るツールがないのか、不安を抱えているお母さん方がたくさんいらっしゃることを感じています。お子さんを夜の6時、7時まで預かることで、育児は楽になると思いますが、お母さん方の育児不安を改善できるような策等、そのことも今後考えていけたらと思います。では、議題もたくさんありますので、挨拶は以上といたします。よろしく願いいたします。

3. 報告

(事務局、金田課長)

では、進行につきましては、下野市子ども・子育て会議条例第5条第3項の規定に「会長は、子ども・子育て会議を代表し、会務を総理する。」とありますので、以降を佐間田会長の進行でお願いいたします。

(佐間田会長) では、次第に沿って進めてまいります。

報告(1) 薬師寺保育園の移転先に関する意見について、事務局から説明してください。

(事務局、金田課長)

【資料1-1、に基づき説明】

(佐間田会長) ただいま事務局より報告がありました。この件につきまして、よろしいでしょうか。

(竹内委員) 前回の委員会の意見を受けてやって頂いたということですが、未回答の5施設について、内木会系列以外のところですか。

(事務局、金田課長)

5施設は、内木会系列の以外の施設で、公立施設、幼稚園と、小規模園になります。

(竹内委員) 他の園はなぜ、回答しないんですか。何でアンケートに答えないんですか。こういうのは出さないもんなんですか。アンケートの結果に、反対、賛成、の意見がありますが、これで全部ですか。

(事務局、金田課長)

全部ではなくで、根本的な問題に対する意見を集約したものです。

(竹内委員) 細かいのはこの後もらえて、議事録に添付できるんですか。これは、事務局が抜粋しているものなので、他の全ての意見も見たいので、それを文章で、議事録にきちんと残しておくのが大事ですよということを言いたいので。それは、できますか。

(事務局、金田課長)

この後の資料にも少し関連していくのですが、全部というのは、施設間の書き込みもあるので、なかなか全部出すというのは、子ども・子育て会議の資料となりますと、固有名詞もあるので、施設間の関係もあるので、そこはこういったまとめたものの対応したいと思います。

(竹内委員) それは、そうなんですか。都合のいいことしか書かないと思われてしまいます。せめて、委員には開示すべきことだと思いますし、聞きたいから、この間の会議で決をとり、過半数をとった訳ですから、それは提示するのが当然だと思いますが。

(事務局、金田課長)

意見について集計したものは、施設間では、共有しているものではありませんが、前回子ども・子育て会議の中では、全部を示すとは記録されておられませんので、主なものということであります。

(竹内委員) 要はできないということですか。それをやってほしいと、この間言ったわけで。このピックアップしたものでいうのはおかしいと思うんですけど。全て、開示すべきなんじゃないですか。それをやるからやることになったんじゃないんですか。前回、そんな条件を付けていたわけでは全然ないですから。それは不誠実なんではないですか。それをやってほしいと言って、それを一部しか見せないというのはおかしいと思うんですけど。全部開示して頂きたい。

私も興味あるというか、もともと、施設の方々が言っていたことが本当に合っているのか、どうなのかなというのがあつてのことなのに、それをこれでいうのは、あまりにもひどいんじゃないですか。

(小谷委員) 施設長会議では、施設長会議の内容はきちんと議事録として残してください、という意見はあつたんです。施設長会議はあつても、会議の議事録がなかったのので、この件での施設長会議での記録はきちんと残してくださいというご意見があつたんです。長い時間かけて話した内容を、A4サイズの1枚

にしてしまうことはないんじゃないでしょうか。内木会が7施設あって、他の民間の施設は全員参加しているんですが、多数決をとると内木会の方が多いいので、一法人、一挙手という形でお願いしたいというくらいです。回答されていないのは、公立ということですよ。民間の方は、全員参加しての意見になったということによろしいですよ。

(事務局、金田課長)

未回答の施設については、公立施設3園と、石橋幼稚園、にこにこ園の5施設になります。

(佐間田会長) 小谷委員さんの意見としては、地域の施設長間の情報共有はもちろんのこと、市との情報共有が子ども達を支えるために一番大切なのでないかということですね。ありがとうございました。

(小谷委員) 既存の認定こども園は皆さん出ているので、かなりの時間、話し合ったので、これで終わってしまうのでは。ただ、賛成、反対だけではなく、回答があったということになりますので、できれば、検討して頂くなり、精査して頂くなりして議事録を出していただくのがいいのかなと思います。

(竹内委員) まず、このアンケートについて全て教えてください。公的なものは何か圧力があつたかどうかは知りませんが、アンケートしたわけだから。全部開示しないなんて、前回、そんな条件出していないわけでしょ。それは、見させてください。

(事務局、金田課長)

アンケートの中、個人名とかもありますので、それを調整して、委員の皆様には、別途、お渡しするという。この会議の中でお示しするという。その辺を調整したうえで、お渡ししたいと思います。

(竹内委員) 2点あるんですけど。ここに開示してくれということと、私が言っているのは、ちゃんと議事録に載せればいいじゃないですか。それをなぜ載せないんですか、という2つなんです。

(佐間田会長) お時間もかかることですし、本日メインとなるのは中間見直しを進めるということで、会議の最後に、開示して頂くということによろしいでしょうか。

———— 委員賛同 ————

(佐間田会長) では、最後にお時間を頂くということによろしいでしょうか。続きまして、報告(2) 幼保連携型認定こども園等審査部会の結果とその後の対応について、お願いいたします。

(事務局、福田部長)

【資料1-2、に基づき説明】

(小谷委員) 資料1-2の裏面の一番下ですが、来年度の利用定員の設定のところが、施設長皆が納得できるような話し合いとありますが、反対だけでも、利用定員については、「見直します」という内木会の方から発言があったので、納得という形になっています。これだけではなく、内木会が利用定員を見直しますということをきちんと断言してくださったので納得した、という経緯があったと思います。

(事務局、福田部長)

ただ今のご意見ですが、施設長会議の中でも、内木会の方から利用定員についてはそういったご発言を頂いたところです。そういったことを含めまして、明日の施設長会議の中で、利用定員についての考え方等について、話し合いをもっていきたいと考えております。

(大垣委員) アンケートの実施状況の中で、対象施設となっているんですが、対象はどういった枠があるのかどうか。施設長会議は、公立は出ていないんですか。施設長会議に、公立の保育園が出ていないのはなぜなのか。知りたいので、お願いします。

(事務局、金田課長)

施設長会議は、市内の施設長ということで17施設。私立の幼稚園、保育園、認定こども園、公立の保育園の17施設を対象に行ったということです。公立園につきましては、施設長会議の構成員となっておりますので、参加して話し合いをしているところでもあります。公立園からの回答がないというところは、特段理由は伺っていませんが、結果、期日までに回答がなかったということになります。

(大垣委員) 施設長会議には、公立保育園も出るということで間違いないですね。分かりました。

(小谷委員) 公平性ということで、かなり不平等があったと思います。一番の問題は、不公平であったということで、園の適正配置というところが、非常によくはないのではないかということと、公平性というところも出ていたと思うのです

が。施設長の意見には、公平性と書かれています。

(事務局、福田部長)

公平性という部分ですけれども、確かに、最後の会議のまとめの中には触れていないところではありますけれども、今後の市の対応についての中では、公平性、透明性を確保するためにも情報共有、施設の方の意見を聞ける環境を作っていけるようにするというところで、考えているところではありますので、今後そのように進めていきたいと思えます。

(小谷委員)

公平性というところで、むつみ学園は、分園をつくるということで、申請を出しているんです。それが、薬師寺の問題があるから先送りということで、前市長さんとの話し合いの中でもそうなんです、実際問題として、園によって状況が全然違うと思うんです。むつみ学園の場合は、市外から来ているお子さん方がすごく多くて、学童保育は22校から来ています。卒園児が、13校に分かれていくことを見た時に、地元ではなく、市の境界線のところから多くきています。学童保育は今、126人ほど登録していて、現実には2教室、80人でやっているのですが、それを増やすのに前任の園長先生から十数年やっていて、増やしてくださると言ってもらってから4年経過してやっと、2つの教室を増やすことになって、トイレを改築したり、全部で800万円程度かかりましたが、補助が出ると言われてやったのに、1円も出ないという結果になりました。今年度の卒園生が多いので、また、学童にくる子が多くなるので、外に学童保育を作りたいと申請を出して通らず、園庭の中で建てられるかと相談したが、それもダメということで。卒園生が今年度も出るので、このままでいくと学童保育の登録者は150人くらいになるということで、市の窓口の職員も一緒に考えてくださって、教室を作るということにはなったんですが、施設の整備とか、お金を1円ももらえていないのが現実なんです。方や、補助金を頂きながら学童保育室を建てているわけなので、そういうことの不平等性があり、市の境界線から来ているお子さんが多いので、運営を申請しても、薬師寺問題と絡んで、次に次に、前任の市長さんからも今はまずいよねと言われて。各園でも事情があると思えますので、地元からたくさん来ている薬師寺さんもあれば、市の境界線から来たいというお子さんがいるので、それを踏まえて補助金を平等に使って頂きたいと思えます。この問題で、縛りがきつくなるという不安がありますので、ご意見を言わせて頂きました。明日の施設長会議でもよろしく願います。

(佐間田会長)

ご意見として頂戴いたします。では、報告事項につきましては、ただ今、報告がありましたように、施設長会議として、今後、市が改善に取り組むことを条件に、薬師寺保育園の認定こども園への移行と移転について了承された

ことを踏まえて議事に移ってまいります。

それでは、議事（１）「子育て応援 しもつけっ子プラン」令和３年度分点検・評価報告書について事務局の方からお願いいたします。

（事務局、伊澤課長補佐）

【資料２に基づき説明】

（猪瀬委員） P 6 2 の「育児ママ・パパリフレッシュ事業」についてですが、ママ・パパリフレッシュ券を利用している市民の方は、どれくらいいますか。本年度当園を利用してくださった方で、36枚持っているんだけれども、ほとんど使っていないということをおっしゃっていました。どのくらいの方が券を使っていますか。

（事務局、伊澤課長補佐）

「育児ママ・パパリフレッシュ事業」のリフレッシュ券は、出生届の際、今後、幼稚園・保育園の利用を始める前までの3歳児未満が対象となりますが、その方に対して、3歳未満まで、園とか通わずにご家庭で養育する場合に使って頂ける事業になります。それまでの分として一度に36枚のリフレッシュ券を交付していますので、一番最初には、36枚持っているということになります。その中で、ご家庭にいる間には、お母さんが冠婚葬祭等で不在になるといった際に利用して頂くことを想定しておりまして、1枚につき1時間で使用するようになるので、適宜使って頂ければと思っておりますが、出生届に来た方にお渡ししていることになっています。

（猪瀬委員） せっかく良い制度ですが、なかなか使ってらっしゃらない方を見かけたので、どれくらいの方が使っているのか、何%くらいの方が使っているのか知りたいと思ひまして。せっかくいい制度なのに、もし使われていなかったら、もっとPRして、ご家庭で子育てをしている方への支援にもなるし、相談の窓口にも、幼稚園、保育園を悩んでいる時に相談できることでもあるので、使っていない方がいれば、ぜひ使って頂けるといいのではと思ひているので、どのくらいの方が利用されているのか知りたいと思ひました。

（事務局、伊澤課長補佐）

「育児ママ・パパリフレッシュ事業」につきましては、利用率が、だいたい50%に満たない状況でありまして、40%程度であります。こちらの事業は、利用率の向上というのも課題として捉えておりまして、今後、周知していくということで、利用促進に取り組んでいきたいと考えております。

（大垣委員） 券を配布するわけですが、結局、利用者が少ないというのは、どの様な手続

きをして、突然に配布されて、突然に施設に行って利用できるのか、その辺、券を配布した時に説明をしているのか、その状況、様子を知りたいと思います。

(事務局、伊澤課長補佐)

まず、窓口に出生の届け出で来庁した際に、こども福祉課に寄っていただいて、児童手当の手続きと合わせて、このような事業がありますと内容を説明しております。一式入った封筒をお渡しして、この施設が使えますとご案内します。ただ、今日、急に使いたいと言われましてもご利用頂けないので、事前に施設にご連絡して予約を取ってから使ってくださいと説明しております。利用案内も封筒に入れておりますし、窓口の方でもご説明しております。

(大垣委員)

P 1 3 の障がい児を養育する家庭への支援の中で、「放課後児童健全育成事業（学童保育）における特別な支援を必要とする児童の受け入れ推進」がD評価になっておりますが、ボーダーラインのお子さんが行くところ、放課後行く場所がない。今は、放課後デイが立ち上がってきましたが、そこまでいくお子さんではなくて、通常の学童保育に行くということで悩まれるお母さん方もいる。結局支援が必要な部分はどこかにあるので、そんな時に、保育体制、職員体制ができていないといけないので、毎年課題になるんですが、その辺の市の考えをお聞きしたいと思います。そういったお子さんたくさんいらっしゃるので、お母さん達の気持ちに寄り添って頂けたらと思います。

(事務局、伊澤課長補佐)

学童保育につきましては、こちらにあるように毎回課題となっております。学童保育につきましては、学童支援員の方に、学童保育の中で、遊びながら見てもらう、様子を見てもらいながら、成長を見守って頂くということですが、現在、公立の学童も多く通って頂いているので、その中で、学童支援員の数の確保が、今現在の課題となっております。障がいのあるお子さんの対応につきましても、加配の部分ということまで、中々手が回らないと言いますか、指導員の確保が間に合わないという状況であります。通常の部分につきましても、学童支援員の確保につきましては、苦慮しております。今、新聞折り込み広告を使いまして、学童支援員の確保に努めているところであります。なるべく多くの学童支援員を確保できるようにして、こういうボーダーラインのお子さんにつきましても対応していきたいと考えております。

(小谷委員)

P 6 7 「障がい児保育事業」の中で、毎年研修会を実施していくという計画内容ですが、令和3年度は何回研修会を実施されたのですか。研修会の回数

を増やして頂きたいということと、保護者向けの研修もできれば盛り込んで頂ければと思います。

(事務局、植野主幹)

今後、保護者向けの研修も検討していきたいと思いますので、ご意見ありがとうございます。

(佐間田会長) 「子育て応援 しもつけっ子プラン」令和3年度分点検・評価報告書については以上とさせていただきます。

では、(2) 「子育て応援 しもつけっ子プラン」中間見直し(案)について事務局の方からお願いいたします。

(事務局、伊澤課長補佐、植野主幹)

【資料3に基づき説明】

(佐間田会長) 委員の皆様、ご意見、ご質問、ございますでしょうか。

特に皆様ございませんか。

では、中間見直しにつきましては、ご提案のとおりとさせていただきますので、資料3の(案)の文字については、削除して頂きたいと思います。

それでは、報告事項の(1)薬師寺保育園の移転先に関する意見について、に戻りたいと思います。事務局、お願いいたします。

(事務局、金田課長)

先ほど、冒頭、(1)薬師寺保育園の移転先に関する意見についてですが、詳細、施設長の意見の開示についてご意見をいただきました。ただ今、資料をお配りいたします。12施設のアンケートの内容をコピーしたものになります。この資料につきましては、会議の中での資料とさせていただきますので、HPでの公表はいたしません。この場限りの委員さんたちへの資料とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。資料として、施設長会議の当日の会議録も配布いたします。追加資料として配布いたしますが、取扱注意でよろしくお願いいたします。

(小谷委員) 施設長会議の議事録に関して、こうやって配布する前に、施設長さん達に確認して頂きたと思います。議事録に関しましては、発言されている方に一度確認されてから出して頂きたいと思います。確認無くして、印刷してこうやって配布されるのは、問題があると思います。

(事務局、金田課長)

申し訳ありません。先走ってしまいました。施設長会議の会議録についまし

ては、発言者の内容確認が取れておりませんので、回収させていただきます。施設長の皆様には、追って確認して頂いてから、委員の皆様にご配布したいと思います。

(小谷委員) 竹内委員さんの意見については、「配布させていただきます」という回答で、後日、確認して頂いたものを配布して頂ければと思います。

(事務局、金田課長)

申し訳ありません。施設長さん達にご確認頂いた後、委員さんに配布したいと思います。

(竹内委員) 施設長会議の会議録はそのようにして頂ければと思います。質問ですが、アンケートの意見、こんなに細かくもらって書いてあって、先の文章と内容が違うように感じてしまう、印象を受けてしまう。このアンケートの施設長からの意見は、持ち帰っていいですか。

(事務局、金田課長)

持ち帰って頂いていいのですが、公表については、資料1-1を使用したいと思います。

(竹内委員) 公表までは考えていらっしゃるんですか。

(事務局、金田課長)

HPでの公表は考えておりません。

(竹内委員) 依頼してもやらないということでしょうか。

(事務局、金田課長)

HPでの掲載は考えておりません。

(竹内委員) HPに載せないということは、我々の会議の議事録にも載せないということですか。議事録には載せるか載せないかが分からない。

(事務局、金田課長)

配布したという事実は載せますが、詳細、中身については、載せる予定はありません。

(竹内委員) それを載せて頂きたいんですけども。なぜ駄目なんですか。議事録に載せるとHPに開示になるんですか。

(事務局、金田課長)

議事録と一緒に会議資料をHPで公開しております。

(竹内委員) 内木会系列と他の民間の人の意見が違うのが見て取れるんですが、これは、本会議が開催された頃から考えると、この内容は、事務局は把握されていたんですか。こういう結果になるということを把握されていたのか、ということを知りたい。

(事務局、金田課長)

これまで、薬師寺保育園の移転については、施設長会議、あるいは、この子ども・子育て会議でも説明してきたところではありましたが、そのタイミング、時期については、今振り返れば、至らないことがあったのかなと思っております。

(竹内委員) 理解されてたんですか。されていなかったんですか。ほぼ理解していた内容ですというのか、アンケートとったら全然捉え方が違っていましたというのか、どちらですか。

(事務局、金田課長)

前から施設長会議、子ども・子育て会議で説明がなかったということは、ご指摘があったことなので、アンケートの結果を改めて強く感じたところであります。

(竹内委員) やっぱり、アンケートを取ってこれだけ乖離があるというのは、ご理解頂けたというので、事務局として、市としてはよろしいですか。

(事務局、金田課長)

施設長からのご意見を拝見して、市内の事業者間に、これほどの溝があるということを知ったところです。当然、施設間ばかりではなく、市と施設の間関係も再構築しなければならないことを再認識いたしました。このままの状況ではよいことではありませんので、今後、根本的な問題というのを洗い出してみまして、施設長会議でも、そのあたりを話し合いまして、少しでも歩み寄れるように続けていこうということで、考えているところであります。

(竹内委員) 施設長会議って、今までも定期的にやっているものなんですか。今回初めてなんですか。

(事務局、金田課長)

施設長会議は、基本的には、月1回開催しております。情報交換や、市からの情報提供で開いております。通常では、月の後半ということで開いておりますが、今回は、臨時的に11日に開催いたしまして、今後の対応なども協議したところであります。

(竹内委員) 施設長会議では、アンケートの資料は提示しないんですか。

(事務局、金田課長)

施設長会議では、配布しております。全部の施設に、このような結果でしたということで配布してあります。

(竹内委員) この資料1-2のP2に、施設長会議で取り上げた問題については、子ども・子育て会議に報告し、その結果を施設長会議に戻すとありますが、今後、議事録を確認してもらったら、こちらでも見れるということですか。子ども・子育て会議は上にあるような感じで書いてあるんですけども。

(小林委員) 子ども・子育て会議の条例上、施設長会議の上部組織ではないと思いますが、この表現はいいのですか。

(事務局、金田課長)

施設長会議と、子ども・子育て会議は連動ということで、情報を共有するというので、お話し合わせていただいたところなので、明日、施設長会議で、その中でも情報の共有化ということで図ってまいりたいと思います。

(竹内委員) わかりました。アンケートやって頂いてありがとうございます。私も正直、どういった意見が書かれてくるか分からなかったですし、この会議においては、公平な立場で出ているので、どっちの立場でもない、一企業としてはそういう意味では良かったのかなと。民間保育園から反対は非常に強いと、公的な当初の意見、色々と曖昧に答えていましたけれども、実際は、非常に乖離があったという部分は反省すべき点ではないかということなんか、ということがエビデンスの一つになると思います。今後、こういう施設長会議とかあるわけですから、何か問題が起きたりした時は、きちんと、前もこうだったでしょと、だからこういう風にしましょう、というのを証拠資料みたいなもので、やっぱり、訴えていくのが必要だと思いますので、民間の施設の方々は、きちんと理解して声を上げていくことが今後も大切なのではないかなと思いますので、良かったのではないかと思います。

(小谷委員) 希望の意見ですが、目次のところに園名が12書かれていますが、実際に

は、法人として12あるわけではないので、内木会として7園あることと、法人によっては2園経営している場合もありますが、このアンケートのまとめ方が50音になっておりますので、とても見にくいので、法人ごとにまとめて頂くと見やすかったのかなと思います。

(小林委員) 内木会系だけ読み上げていただけますか。

(事務局、植野主幹)

内木会系は、あおば保育園、こがねい保育園、第二薬師寺幼稚園、薬師寺保育園、薬師寺幼稚園、薬師寺幼稚園分園、わかば保育園になります。

(竹内委員) 法人単位にするものではないんですか。

(事務局、金田課長)

施設長会議の中でのことなので、施設長に対してのアンケートになりますので、施設長ごとに50音順に集約させて頂きました。

(竹内委員) 施設長会議は、これでやっているんですか。

(小谷委員) この時に限り名前の順に座りました。今までは、公立保育園さんが固まり、薬師寺さんが固まり、あとはそれ以外の民間の園さんで固まって座っていました。アンケートのことで臨時の施設長会議、賛成か反対かを聞く会議では、50音順に並んでいたんです。そこでも、内容が分かりづらいという指摘があり、現に薬師寺以外は反対ということだったんですが、アンケートのまとめ方とか見にくいので、あえて意見させて頂きました。

(竹内委員) 終始、このアンケートも言わないと全部出さない、この考え方がそもそもここまでになったのではないのかなと。公平性と透明性を担保すると書いてあるんですから、今後、言われなきややらないではなくて、きちんと、信頼回復に努めると山中さんも言ってるわけですから、しっかりとやって頂きたいと思います。

(佐間田会長) ありがとうございます。では、その他で事務局の方からありますでしょうか。

(事務局、金田課長)

その他ですが、事務局の方からはございません。次回以降の会議については、まだ、議事・議題等は定まっておりますので、日程等は改めての連絡となります。

(佐間田会長) では、活発なご議論ありがとうございました。進行は事務局に戻させていただきます。

(事務局、金田課長)

議事進行、ありがとうございました。また、活発なご議論ありがとうございました。ここで、議事終了となりますが、坂村市長より、あらためて委員の皆様にご挨拶を申し上げます。

(坂村市長) 皆様、大変お疲れ様です。委員の皆様には、お忙しい中、ご参加頂きまして心から感謝申し上げます。この度の薬師寺保育園の移転につきましては、施設長の皆様からの多数のご意見を頂いておりまして、子ども・子育て会議の皆様におかれましても、ご心配とご負担をおかけしましたこと、誠に申し訳ないと思っております。先日開催されまして施設長会議におかれましても、今後、市が改善に取り組むことを条件に薬師寺保育園の認定こども園への移行と移転につきましてはご了承頂いたところでございますが、保育の受け皿の拡大の観点から推進してまいった所ですが、初期対応、様々な配慮が不足しておりましたこと、また、その後の調整不足が招いたこの度の結果でございます。このような事態になってしまったこと、真摯に受け止めて、問題解決に全力で臨みまして、事業者間の関係改善、市への信頼回復に努めてまいりたいと考えております。やはり、ご承認頂きましたが、これから私達といたしましては、まずは信頼回復に努めるということ、子ども達の健やかな成長をしっかりと見守らなければいけないと思っております。そのためにも、行政としては、平等な立場で施設間の調和を図り、子ども達の健やかな成長に繋げていくということは大切なことですので、このことに、これからはしっかりと力を尽くしてしていく、努力していきたい思うところでございます。こちらにお伺いする前に、市内の小学校で児童表彰を行っておりまして、今日は祇園小に行ってきました。子ども達が立派に堂々と表彰を受けているところに感動いたしました。保護者の皆様も参加されておりました。子ども達一人一人に、各ご家庭、学校で愛情を注いでいるわけですが、一人一人、ご家庭で大切に育てられているところをすごく感じまして、私達も、子ども達一人一人を大切に见守っていかなければならない、と改めて思いました。繰り返しになって恐縮ですが、行政としまして、これからは平等な立場で調整を図り、子ども達の成長をしっかりと見守っていきたいと思うところでございますので、委員の皆様におかれましては、これからもご支援、ご指導賜りますよう、何卒よろしく願いいたします。様々なことでご心配おかけして大変恐縮ですが、これからもどうぞよろしく願い申し上げます。本日は、少し寒い気候となってまいりましたので、寒暖差が激しいですので、皆様におかれましては、お体壊さないようにご注意頂ければと思います。本日は、お時

間を頂きまして誠にありがとうございました。

(竹内委員) ぜひ、アンケートは目を通された方がいいと思います。今日も、こうやって言わないと、抜粋じゃなくて全部出てこないというのは、今日見ても、私達は不信感ですよ。信頼回復するんだったら、全部、開示すればいいじゃないですか。都合のいいのしか出さないというのは、やめた方がいいですよ。そういう姿勢が、今回、不信感を得てしまった訳です。トップとして、きちんと、今後もチェックして頂きたい案件だと思いますので、よろしく願います。

(坂村市長) 私が先ほど申し上げましたことについては、ここにいる職員、部長、課長、担当者、皆同じ気持ちでありますので、頂いたご意見は、重く受け止めて対応したいと思います。今後ともよろしく願います。繰り返しになりますが、私達は、平等な立場で、調和を図っていきたい、この後も大切ですので、役目、責任をきちんと果たしてまいりたいと思っております。

(竹内委員) 私は、こういう会議に初めて出たわけですが、決定権がない会議ではありますが、こういった会議は非常に大切だと思いますので、皆の意見が言えれば、そういう場を作っていくべきではないですか。もめないと、都合よく行ってしまふので、よく分からない部分が多くなっていってしまいますので、行政としてはおかしいという意見も、こうやって市長が聞いてくれるのは、こういう会議ではないことだと思うので、事務局や県は大変だとは思いますが、これでスムーズに流れていくと思いますので良かったと思います。

(坂村市長) 私達も一生懸命取り組みたいところですが、皆様から出るご意見というのは、私達が考えつかないこと、思わないことをおっしゃって頂けることが多いわけですから、皆様との話し合いというのは大切にしていきたいと思っております。

(佐間田会長) 市長さんもお子さんがいらっしゃると思いますので、一市民としては、同じように子育てをする世代が、自分の子どもが安心して通える施設であったり、人材であったり、安心して育てられる場所を作りたいと思って、すごく期待しています。私達の意見を取り入れて頂ければと思いますので、よろしく願います。

(坂村市長) 先週、タウントークを3日間行いまして、2日間は、夜の7時から、最終日は土曜日の10時からだったんですが、どうしても、子育て世代の方の参加が非常に少ないので、時間を昼間とか、幼稚園や小学校の先生方にもご相談して、ぜひ、子育て世代の皆様が参加して頂けるような場所を作っていく

いなと思っています。皆様のご意見、思い、普段困ったこと等は積極的にやっていきたいと思っております。私も子育て世代であり、子どもを想う気持ちは同じですので、しっかり取り組んでいきたいと思います。

(小谷委員) 市長さんがこうして会議の最後に来て頂いて、不信感が一気に信頼感に変わるようです。これからの下野市は大丈夫という感じで安心できました。ご公務お忙しい中、参加して下さったことに感謝申し上げます。

(坂村市長) 先ほどの挨拶でも申し上げましたが、信頼回復と申しますか、平等な立場でやっていきたいと思しますので、ここに参加している職員も同じ思いでおりますので、私達一丸となってやってまいりたいと思しますので、ご理解頂きたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(稲山委員) 私は、2・3年に一度転勤してしまうので、一番最初に考えるのは、子どもの預け先っていうのはすごく問題になるんですけども、全国あちこち行っていますが、子どもを預けやすい環境と考えますと、栃木県、特に下野市はすごく預けやすい環境だったのかなと思います。預けやすい環境を作って頂いていることについては、すごく感謝しているのですが、こういったご意見を見る限り、結構根深い問題もたくさんあるのかなと思います。結局、子どもはそういうのは関係ないと思ひますし、こういった根深い問題については、しっかり解決して頂いた上で、より子どもを預けやすい、子どもにとっても成長しやすい環境を作って頂きたいなと思ひます。私達の意見もそうですし、私達だけではなく、市の職員さんの意見も、管理職の意見だけではなくて、下の人たちの意見もぜひ聞いて頂いて、上からだけでなく、下の意見も、ご公務お忙しいとは思ひますが、色々聞いて頂けたらと思ひますので、よろしくお願いいたします。

(坂村市長) 今のご意見、大切なことだと思ひますので、なるべく時間が許す限り、管理職員ではない職員とも対話をしていきたいと思ひます。

(事務局、金田課長)

色々ご意見ありがとうございました。以上で、市長につきましては、ここで退席となります。

以上を持ちまして、第4回の子ども・子育て会議を閉会いたします。